

『生後0ヶ月の最強魔王』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『生後0ヶ月の最強魔王』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『生後0ヶ月の最強魔王』を読んだことのある10代～50代の男女24名
調査期間	2026年5月3日～2026年5月4日 2026年5月25日 2026年6月25日 2026年7月25日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	ランサーズ
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/seigo0kagetunosaikyoumaou/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 『生後0ヶ月の最強魔王』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

20代女性	2人
30代男性	4人
30代女性	2人
40代男性	0人
40代女性	4人
50代男性	11人
50代女性	1人

Q2: 『生後0ヶ月の最強魔王』の感想を教えてください。

1巻	末恐ろしい魔王が誕生したものだと、思わず身震いを覚えました。転生における特典の一つとして、いわゆる知識面での優位性が挙げられます。幼い段階から大人の意識を持っていること自体、周囲を驚かせるに十分でしょう。しかし、アヴサルの力はその域にとどまるものではないように感じられます。
----	---

	数多くのスキルを習得しているだけでなく、闇魔法の最高位に位置づけられる禁呪すら打ち破っていました。生まれる前の段階でこれほどの力を示していることを考えると、その将来がいかに規格外であるかがうかがえます。一方で、ルシエラとその子を害そうとする勢力の存在も明らかになりました。今後、こうした敵対勢力とどのように向き合っていくのか、引き続き注目したいところです。
1巻	転生モノと言えば、もはやご都合チートはお約束となりつつあるけれど、一応お母さんのおかげでスキルを獲得できているので、色々と本当に環境に恵まれていますね。そして環境といえば、周りの女性陣が可愛い。お母さんもめちゃくちゃ綺麗だけれど、メイドの顔が好みでした。主人公の中身はおじさんなので、今後色々とハプニングがありそう(笑)
1巻	定番のチート系異世界転生モノですが、「世界で最も自分を愛してくれる家族」が欲しいと願った結果、墮天使と魔王の子になってしまったり、スタートが母親の胎内だったり、意外性がある面白かったです。お母さんの努力のおかげで最初からかなり便利で万能な能力を持っているようですが、まだ生まれたばかりの赤ちゃんという点が上手くバランスをとってくれそうなので、これからどんなふうにストーリーが進んでいくのか楽しみです。
2巻	想像以上にアヴサルの能力が優れており、驚かされました。部下の反応を見る限り、黒の手をあの水準で扱えること自体が極めて異例であることがうかがえます。しかも、事前の訓練を一切行わず、いわばぶっつけ本番でこれほどの成果を見せた点に、底知れない可能性を感じました。一方で、乳母探しも気にかかります。いくらドラゴニアンが友好関係にあるとはいえ、カリン程の人物が容易にその役目を引き受けるとは思えません。交渉がどのように進むのか、今後の展開に注目したいところです。
2巻	ただ戦って勝てばレベルが上がっていくのではなく、別の条件があるということがわかっていく辺りがこのエピソードの見どころだと思います。それぞれのキャラクターの役割も深く掘り下げられていき、読者がこの作品の世界観をもっと理解できるようになるための説明が多かった気がしました。それでいてちゃんと戦闘シーンもあり、説明で飽きさせないような工夫も凝らされているのが良かったです。
2巻	一巻は生まれる前から生まれてすぐの話であり深い内容には触れてこなかったのですが、2巻からはいよいよ本格的に主人公の育成に関わる内容になっていきます。といっても、基本的に赤ちゃんとして生活して美女の母乳を飲むだけなのですが。しかし、この母乳に大きな秘密があるのです。これについては今後のストーリーの根幹に関わる重要な情報が語られる部分ですので、スルーは厳禁ですね。 しかしこれから何人の女の子から乳をもらい、それによって今後どんな力を得て魔王として成長していくのか今からとても楽しみです。
3巻	アヴサルの戦いぶりは、実に見事なものでした。カリンの指摘はもっともであり、いかにスキルを継承していても、それを使いこなせなければ意味がありません。一方で、アヴサルは生まれて間もない存在であり、スキルの鍛錬を積んでいるとは考えにくい状況です。そのため、カリンの言葉どおり敗北は避けられないのではないかと感じていました。それだけに、アヴサルが見せた逆転劇は非常に印象的であり、お見事でした。決闘に勝利した以上、カリンは乳母になってくれるでしょう。カリンからどのようなスキルを継承するのか、その点にも注目したいところです。
3巻	カリンに乳母になってもらうために、アヴサルが再び成長した姿に変化して彼女と戦いを繰り広げるという回でしたが、アヴサルが実に見事にスキルを使いこなしていて、見応えがあり面白かったです。ルシエラのお腹の中にいる時から飲み込みが速く対応力も高かったのも、転生する前も実はかなり優秀な人物だったのではないかと感じました。
3巻	新キャラのカリン將軍、戦士らしく凛々しい雰囲気、言動から脳筋っぽさがヒシヒシと伝わってくるのに、顔立ち自体はかわいい系なのがツボにハマりました。また、彼女とアヴサルのバトルは躍動感と迫力がたっぷりで、動きのあるシーンを描かせると映えるマンガ家さんだなと感じました。アヴサルがとにかくスーパーチートなので展開がはやく、サクサク進むのが気持ち良いです。
4巻	カリンを乳母にできたのは良かったと思います。リザリアはルシエラの側近であるがゆえに、アヴサルに対してやや盲目的な姿勢が見受けられました。その点において、アヴサルを客観的に見ることでカリンが加わったことは、大きな意味を持つといえるでしょう。また、カリンから母乳を得たことでアヴサルが大きく力を伸ばした点も、今後の展開において重要な要素になると感じました。一方で、ノクシア・ブラックローズの存在も気にかかります。ダークプリーストであることから、直接的な攻撃よりも魔

	法を用いた搦め手を得意とする可能性が高いのではないのでしょうか。アヴサルはそのような戦いに十分慣れているとは言い難く、仮に決闘という形で対峙することになれば、苦戦を強いられる可能性も考えられます。その点において、強い不安を覚えました。
4巻	見事カリンに勝利したアヴサル。勝利して、勝利の余韻に浸ってめでたしめでたしではなく、カリンが味方になるという展開が嬉しかったです。アヴサルの能力的に、仲間がどんどん増えていくことで強くなっていくタイプみたいなので、今後も色んな分野に秀でている仲間を増やしていく形になるんだろうな。今後ストーリーが進むごとに、どんなキャラが登場するのか楽しみ。
4巻	このエピソードでは、カリンが仲間になることによってこれからの冒険がさらに壮大になっていく予感を感じさせてくれます。前の巻ではかなり派手なバトルを繰り広げられていたのに対して、今回は落ち着いたシーンが多いのも印象的でした。後半では次の戦いを予感させるような雰囲気があり、その緊張感が伝わってくるのも良かったです。
5巻	暗黒教団は、アヴサルにとって極めて危険な存在であると感じました。アヴサルが実行犯を討ってしまったため、直接の証言を得ることはできていません。しかし、周囲には他の神官たちも居合わせていたはずであり、当時の状況についてある程度の情報は共有されていると考えられます。それにもかかわらず、このような対応を取っている点を踏まえると、イグエル教の司祭による行動が本当に個人の独断であったのかについても疑問を感じました。一方で、アヴサルがどのように交渉を進めていくのかも気になるところです。ノクシアがアヴサルに対して好意的でない現状を踏まえると、なおさら難しい局面であるといえるでしょう。この状況をどのように打開しノクシアの協力を得るのか。今後の展開に注目したいです。
5巻	献身的なりゼリアも凛々しくてカッコいいカリンも魅力的ですが、新しく登場したノクシアも外見・能力ともにまた違った魅力があって、美少女RPGみたいにタイプの違うかわいい女の子がどんどん増えていく展開にわくわくしました。しかも彼女たちには乳母というお役目があるので、アヴサルへの授乳というご褒美シーンが定期的にあり、読者の心をつかむなかなか秀逸な設定だなと思いました。
5巻	今までは育成と仲間化が中心だった流れだったけど、さらに大きな世界設定が乗ってくるので、見ていてワクワクしました。神の呪いにかかった少女の解呪案件が持ち上がり、アヴサルがノクシアの持つ神域解呪にこれから注目して見ていきたいと思いました。これまでの成長が武力や補給中心だったのに対し、5巻では技能の格が上がり、物語のスケールが広がったのでとても面白かったです。
6巻	アヴサルの成長ぶりには、目を見張るものがあります。以前、スキルは継承しただけでは意味がなく、それを使いこなせてこそ価値があるという話がありました。そうした前提を踏まえると、今回の出来事は極めて特異なものだったといえるでしょう。何しろノクシアの神域解呪では成し得なかったことを、アヴサルが実現してしまったのですから。見事としか言いようがありません。一方で、アヴサルを観察している者の存在が気にかかります。その雰囲気からは、吸血鬼のような印象を受けました。吸血鬼は魔物の中でも上位に位置しているだけに、今後アヴサルとどのような関係を築こうとしているのか、注目したいです。
6巻	アヴサルがノクシアの持つ神域解呪のスキルを取得し、無事に少女を助けた時は本当にホッとしました。マルケジウス大司教の悪だくみが明るみになった時はスカッとしたけど、簡単には引き下がらないという態度に驚きました。その場にいる全員を道連れにするために、呪術を使おうとした時はハラハラしましたが、マルケジウスを倒すためにアヴサルが力を尽くす姿に感動しました。
6巻	マルケジウスの狡猾さと恐ろしさが伝わってくる場面が多く、今までの敵とはレベルが全然違う感じがしました。それでも諦めず戦う主人公たちを応援しながらハラハラできるのが、この巻の見どころではないのでしょうか。アヴサルもこの戦いを通してどんどん成長していつてるので、どこまで強くなるのかワクワクしつつ最後まで楽しめるエピソードでした。
7巻	ゼナの登場は、まさに強敵出現という言葉がふさわしいインパクトがありました。カリンはドラゴニアン随一の戦力と称されるほどの実力者ですし、ノクシアやリザリアも決して劣らない強者たちです。その三人が抵抗する間もなく無力化されてしまったことで、ゼナの異常な強さが際立っていました。これまで数々の強敵を相手にしてきたアヴサルですが、今回ばかりは本当の意味で危機的状況なのではないかと感じさせられます。この規格外の相手に対して、アヴサルがどのように立ち向かうのか気になりました。ルシエラ存在も気にかかります。居城へ侵入してきた者をルシエラが気づいていないとは考

	えられません。ルシエラvsゼナの頂上決戦が繰り広げられるのではないかと期待してしまいました。
7巻	カリンたちから見ても、ルシエラがあれほど格が違うと思わせるとは驚きです。これまで、子煩悩な姿しか見てこなかっただけに、やっぱりアヴサルの母親なんだなって思いました。いずれ、ルシエラが授乳するシーンも描かれそうですね。
8巻	アヴサルの強さは、想像以上だったように感じました。ゼナはリザリアたちを一瞬で拘束してしまうほどの強敵です。そのため、アヴサルも苦戦は避けられず、場合によっては敗北してしまうのではないかと考えていました。しかし実際には、アヴサルはゼナを相手に一歩も引かない戦いを見せます。単に強力な能力を手に入れただけではなく、それらを実戦レベルで使いこなしている点に驚かされました。
8巻	ルシエラが気にかかりました。もし普段のコンディションであれば、ルシエラはゼナを相手にしても決して引けを取らなかったでしょう。しかし現在の彼女は産後間もない身であり、本来の力を発揮できる状態とは言い難いはずです。本気になったゼナを相手に、ルシエラがどこまでやり合えるのか注目したいです。
9巻	ゼナが乳母になったのは大きいと思います。今回はルシエラにあっさり敗れてしまいましたが、それはアヴサルと戦った直後だったから。二人の話し方からすると、本来のゼナはルシエラと実力に大きな差があるようには感じられません。実際、魔界の最強の一角とも言われている程ですし、そんな女性がアヴサルの乳母になったことは大きなプラスになったのではないのでしょうか。これでまた、魔王に一歩近づいたように思います。
9巻	人間界の状況が気になりました。アヴサルを討とうとする動きが起きています。この勇者が新たな乳母になりそうですね。アヴサルはこれを退けることができるのか、注目したいです。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス